

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゆ〜す
<https://japan.otakaraneews.com>

じゃぱんお宝にゆ〜す

モノづくり現場の未来を見つける
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！



建築業界でもカーボンニュートラルを推進 削減率100%の低CO2高炉鋼材”Kobenable Steel” (仮称)豊洲4-2街区再開発計画B棟新築工事に使用

CO2排出量が少ない ”Kobenable Steel”

株式会社IHI(社長：井手 博氏)、三菱地所株式会社(社長：吉田 淳一氏)ならびに、鹿島建設株式会社(社長：天野 裕正氏)は、株式会社神戸製鋼所(社長：山口 貢氏)が日本で初めて商品化した低CO2高炉鋼材 ”Kobenable Steel” を、「(仮称)豊洲 4-2 街区再開発計画 B 棟(東京都江東区豊洲)」(※1)の新築工事に使用することを発表した。

建設工事においても CO2排出量削減へ

現在、カーボンニュートラルの実現は世界共通の目標となっており、超高層ビルにおいても脱炭素化に向けた取り組みが求められている。中でも、建設工事の建材由来のCO2排出削減はサプライチェーン全体で取り組むべき分野で、ビルに使用される鉄骨についても製造時のCO2排出量が少ない製品へ



神戸製鋼独自の 高炉向けCO2低減ソリューション ”Kobenable Steel”

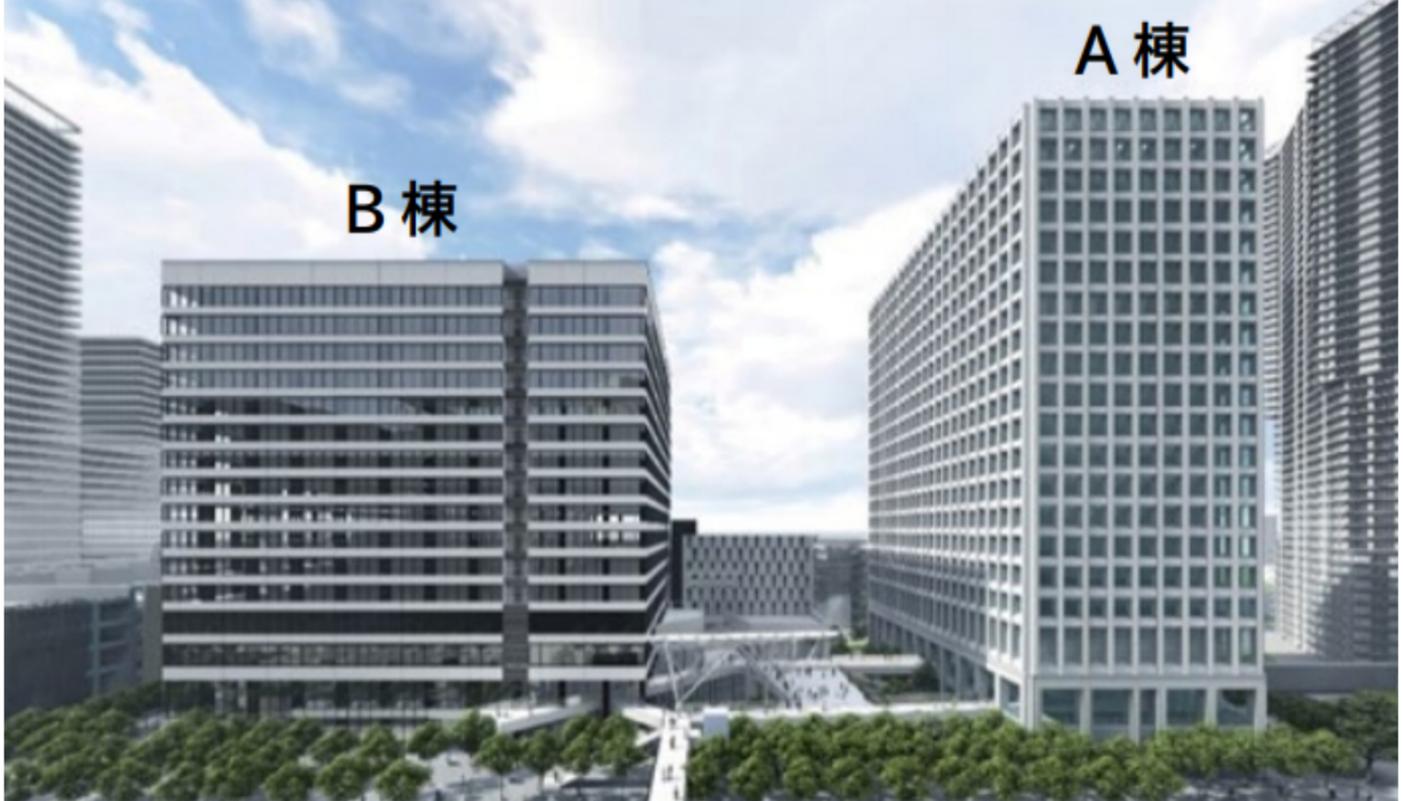
”Kobenable Steel”は、神戸製鋼独自の高炉向けCO2低減ソリューション(※2)を活用することで、従来の品質を維持したままで、低CO2鋼材の提供を可能とする。今回の豊洲における建設工事でも鉄骨の一部に、”Kobenable Steel”を使用することにより、建材由来のCO2排出の削減に寄与する。なお、本物件では、製造時のCO2排出量

神戸製鋼の独自CO2削減ソリューション
 ■ 高炉でのCO2排出量の削減には、還元使用するコークスの削減が有効です。
 ■ 神戸製鋼は鉄鉱石の一部を既に還元済みの鉄鋼原料である「HBI」に置き換える事で使用コークスを減らし、高炉でのCO2排出の約20%低減に成功しました(従来技術比約2倍の削減量)。



をマスバランス方式(※3)により100%削減したKobenable Premierを使用する予定。4社は、持続可能な開発目標(SDGs)を支援し、”Kobenable Steel”を通じて、「つくる責任、つかう責任」を踏まえ、「住み続けられるまちづくり」への貢献を意識し、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めていく。
 ■用語の解説
 ◆※1：(仮称)豊洲 4-2 街区再開発計画B棟事業概要

豊洲二・三丁目地区における最後の大規模再開発として、地域に愛され、豊洲エリアに新たな魅力を創出することで、エリア全体の価値向上を目指す。
 ・事業者：株式会社IHI、三菱地所株式会社。
 ・設計施工者：鹿島建設株式会社。
 ・所在地：東京都江東区豊洲二丁目 1-4-2,4,5
 ・スケジュール：2022年7月着工、2025年6月竣工(予定)。
 ・建物用途：事務所、インキュベーション施設、店舗、シェア企業寮、駐車場。
 ◆※2：神戸製鋼独自の高炉向け CO2低減ソリューション
 エンジニアリング事業のミドレックス技術(天然ガスを使った還元鉄製鉄法であり、世界の約80%(還元鉄全体では約60%)を占めるリーディングプロセス。製鉄工程でのCO2排出量を20~40%抑制できることなどが特長)を用いて製造したHBI(熱間成形還元鉄)を加古川製鉄所の高炉に多量に装入することで、高炉からのCO2排出量を大幅に削減できる技術。
 ◆※3：マスバランス方式
 製品の製造工程において、ある特性(例：低CO2品)を持った原料とそうでない原料とが混在する場合に、その特性を持った原料の投入量に応じて、製品の一部分に対してその特性を割り当てる手法。(※資料提供：神戸製鋼所)



■神戸製鋼所 URL → <https://www.kobelco.co.jp/>